

カミツキガメの根絶に向けた基本戦略・ロードマップ

本県では、平成19年度からカミツキガメの防除に取り組んできましたが、この度、防除内容を抜本的に見直し、今後取り組むべき基本戦略と根絶に至るロードマップを以下のとおりとりまとめました。

戦術1：捕獲頭数をカミツキガメ減少に必要な数以上に増やします。

もんどりワナの数を増やす、新たな捕獲方法を開発するなどにより捕獲圧を高めて徹底的に防除を行い、捕獲数を増やします。

【目標】 毎年度、全体で2,500頭以上、メス1,250頭以上

早期の根絶を目指し、目標値を可能な限り上回る数のカミツキガメを捕獲し、増殖の循環を断ち切っていくよう努めます。

なお、毎年度の捕獲数の状況により、生息数や減少に必要な捕獲数に変動が生じるため、この数値は当面3年間の目標とし、適宜再検証を行います。

戦術2：流域別に、生息状況に応じた段階的な防除を実施します。

- ① 印旛沼流域を流入河川等の集水範囲に即して11の流域に区分します。
鹿島川下流域、鹿島川上流域、高崎川下流域、高崎川上流域、手繰川流域、西印旛沼流域、師戸川流域、新川流域、桑納川流域、神崎川流域、北印旛沼流域（図1）
- ② 11の流域をカミツキガメの生息状況に応じて5段階に区分します。
（表1、図1）
 - ア 高密度区：カミツキガメが高い密度で生息する区域
 - イ 中密度区：カミツキガメが一定程度生息する区域
 - ウ 低密度区：カミツキガメの生息密度があまり高くない区域
 - エ 捕獲ゼロ区：1年間捕獲がなかった区域
 - オ モニタリング区：3年以上捕獲がなく、モニタリングに移行した区域
- ③ 5段階の区分に応じて防除事業を実施し、各流域の生息状況を順次下位区分に移行させていきます。
- ④ カミツキガメ根絶に向けた段階（ステージ）を5期に分け、それぞれの段階に即した考え方（表2）に基づき防除を進めていきます。

図2「カミツキガメ根絶に向けたロードマップ」

- ア 増殖期：これまでの期間
- イ 転換期：平成29年度以降生息数が減少に転じてから高密度区が消滅するまでの時期
特に平成29年度から平成31年度までの3年間を、「戦略集中実施期」とする。
- ウ 減少期：高密度区が消滅してから中密度区が消滅するまでの時期
- エ 低密度期：中密度区が消滅してから低密度区が消滅するまでの時期
- オ 根絶期：低密度区が消滅してから捕獲ゼロ区が消滅するまでの時期

なお、全ての流域がモニタリング区となった後も、カミツキガメの寿命を考慮し、当分の間はモニタリングを継続します。

戦術 3 : 局所的な根絶地区を創出し、これを拡大します。

- ① 生息数の多い流域に「徹底的排除区」を設け、局所的根絶を試行します。
- ② 「徹底的排除区」は、大規模河川、小規模河川、沼及び低地排水路、水田周辺水路の4つの異なる生息環境に、それぞれ1箇所設置します。(図1)
- ③ 徹底的排除区内に一定範囲の「根絶試行地区」を設定し、生息状況を確認しながら、あらゆる捕獲方法を実行し、局所的根絶を実現します。併せて局所的根絶実現のための方法を確立します。
- ④ 「根絶試行地区」にはバッファゾーンを設け、地区外からのカミツキガメの侵入を防止します。
- ⑤ これにより得た根絶地区創出の方法を他地区にも順次適用し、根絶地区の範囲の拡大を図ります。

戦術 4 : 順応的管理を行います。

- ① 本戦略に即した実施計画を策定し、資源投入量や捕獲効果等を随時検証しながら、適宜この見直しを図るマネジメントサイクルを確立します。
- ② 本戦略を平成29年度から平成31年度にかけての3年間集中的に実施し、その成果を検証します。その結果を踏まえ、必要に応じて戦略・戦術を見直すとともに、防除実施計画の改定を行います。
- ③ 以降、ロードマップ上の各段階の転換期をとらえ、それまでの成果の徹底的検証を行い、その都度必要に応じて戦略・戦術を見直します。

その他、以下の点に配慮して防除を推進します。

○生態系への配慮

カミツキガメを除去することによる生態系の変化を把握し、その影響を評価しながら計画を推進します。

特に生息域が重複する在来種であるニホンイシガメについては、できる限り混獲を回避するよう努めるとともに、生息数の回復状況を防除実施と併せて把握するよう努めます。

○広報による普及啓発

印旛沼流域の住民を含め広く県民に対し、カミツキガメの特徴や防除の意義などについて、様々な広報手段を活用して周知に努めます。

これにより、防除活動に対する県民の理解を得るとともに、県民からの通報による緊急収容捕獲数を拡大するよう努めます。